Why not Mac?

vol.6

WEB会議システムをどう選ぶか

“WEB会議で需要なのは
従業員の意識改革”

Mac導入企業で使われるアプリとクラウド時代のMacの使い方

ビジネスシーンにおけるMacユーザが使っているアプリの代表的なものとして、Web会議システムが挙げられる。特定のアプリケーションの操作スキルではなく、他者とのコラボレーションをベースに、いかに新たなビジネス価値を創出できるかを求められる昨今において、他者とのコミュニケーションツールの選定は欠かせないものだ。チャットやファイル共有も重要な機能だが、離れた相手とコミュニケーションをスムースに行う上で、相手の顔が見えるということは、円滑なコミュニケーションを実現する上でも大事な要素になる。

これまでの企業における本社と支店、もしくは支店間のやり取りなど遠隔地とのコミュニケーションは、専用のビデオ会議システムを導入し、専用のデバイスと回線を用意する必要があった。また利用できる会議室が限られており、場所や時間などの物理的な制約もあり、柔軟な働き方ができるには程遠いシステムである。

今やほとんどのスマートフォンやタブレット製品に搭載されているカメラとマイクだが、モバイル前提の働き方において、Macにも同様の条件が求められる。MacBookシリーズには、FaceTimeカメラ、マイクが標準搭載されており、特にWeb会議のために特別なハードウェアを準備する必要がない。MacでWeb会議を始める上で、ハードウェア面での制約は全くないと言っていい。

Macを使って、他者との適切なオンラインミーティングを実現するためには、アプリの選定が大事だ。多種多様なサービスが乱立する中で、大事にすべきポイントはなにか？それは、「安定性」「品質」「使いやすさ」だ。この3点がサービスやアプリを見極めるポイントになる。そして、コミュニケーションの相手は誰か？そのオンラインミーティングの目的は何か？、Who（誰）、What（目的）が明確になれば、オンラインミーティングの手法をどうするかのHow（どうやるか）の部分は自ずと決まってくる。

また、Web会議システムの導入検討には3段階のステップで検討を進めるといい。まずは、最初のステップは標準機能の組み合わせだ。FaceTimeとメモアプリ等の共有機能を使って、他者との情報共有を行う。Apple製品を導入していることが前提だが、導入障壁も低く、安価に始められるところが良い。また、FaceTimeとクラウドストレージサービスのノート機能の組み合わせもよく使われている。

次に、自社で導入しているコミュニケーションツールの「ビデオ電話」機能の活用だ。Slackやチャットワークのようなチャットツールにはビデオ電話の機能が付いている。これにより、手軽にオンラインミーティングが可能になる。また、Microsoft製品を採用していれば、Teamsもオンラインミーティングのツールとして有用だ。

最後に、履歴やログを残す、セキュリティ等の観点で、Web会議のための専用システムを導入するというものだ。これは、会議室単位での導入であれば、これまでのビデオ会議システムと変わりがないが、一人ひとりのユーザにアカウントを付与するなどという点で、コスト面での導入障壁が高い。しかし、会議時の通信の安定性や品質、セキュリティ面など、機能が豊富に揃っているところは魅力的だ。

代表的なWeb会議システムとして、ZoomやCisco Webex Meetingなどがある。実際の利用シーンについて、社内であれば、チームミーティングから経営会議、One on Oneや採用等の面接などの利用シーンが挙げられる。導入している現状のシステムでWeb会議システムの機能を補えるツールがあるかもしれない。社外とのコミュニケーションは、基本的に相手の環境に合わせる必要がある。Webブラウザを使ったシステムだったとしても、何かしらアドオンでインストールが必要か、専用アプリが必要か、双方で確認をして欲しい。企業のセキュリティポリシーによっては、単にアプリやアドオン一つのインストールであったとしても、それを可能にするために情報システム部門への確認が必要だからだ。相手が所有しているWeb会議システムに参加するというシーンでも同様に、自分のMacがその環境に合わせられるかがポイントになる。

Google Chromeのプラグインやアプリのインストールがスムースにできれば、オンラインミーティングの障壁は低い。例えば、最近周囲での利用者が急速に増えているZoomは、アプリさえインストールしていればすぐに使える手軽さがある。これは、よくコミュニケーションを取る相手がお互いにインストールしてさえすれば、いつでもオンラインミーティングが可能だ。また、音声品質を維持しながら、カメラ映像だけでなく、画面共有や資料共有が安定しているところも良い。
なぜ、そのコミュニケーションはWeb会議システムを使うのか？Face to Faceの必要があるのか？ビジネスの意思決定プロセスの中で、時間やコストを考えれば、関わるメンバーの時間調整をし、会議を行うための資料を作成、プリントアウトし、その後の議事録を共有する、などといった行動の一つひとつがとても大きなコストとして跳ね返ってくる。働き方改革が騒がれる中で、一人ひとりの時間に対する意識改革が必要だ。

急な天候の変化で会社への通勤が難しくなったり、看病等の家庭の事情で家を離れることができないなど、テレワークで業務を行うことを前提とした考え方を持ち、一人ひとりがオンラインミーティングの有効性や必然性を意識していかなければ、どんなWeb会議システムを導入したとしても、これまでと同じように会議室に向かって遠隔地とのコミュニケーションを行うだけのツールにしかならない。今まさに移動している時間を見直し、その会議の目的を再確認することで、オンラインミーティングの必要性を再認識することが求められているのではないだろうか？